

メッセージアウトライン

コロサイ人への手紙 2:1 1~15 「キリストがなしてくださったこと」

[11] 「キリストにあって、あなたがたは人の手によらない割礼を受けました。肉のからだを脱ぎ捨て、キリストの割礼を受けたのです」

「割礼」…旧約時代に結ばれた神との契約のしるし。(男子の包皮を切り取る) それはアブラハムとその子孫(イスラエル人)に対して結ばれたもの。→創世記 17:7,10~11 それは神を信じ神の民とされたという信仰のしるしであったが、いつのまにかイスラエル人はその形だけを堅く守るようになっていった。しかし、

真の割礼は単に外側のことなく心の内面のことであった。→エレミヤ 4:4

旧約時代の割礼が象徴していた契約の民としての祝福が今やイエス・キリストを信じることによってもたらされた。それが「人の手によらない割礼」であり、「キリストの割礼」と言われるものである。このキリストの割礼は聖くないものを切り捨てて、神に受け入れられる者とするをも意味しており、それは「肉のからだを脱ぎ捨て」ということばに示されている。「肉のからだ」とは私たちの罪深い性質、墮落している人格的存在のすべてを指す。キリストを信じ、キリストに結ばれることによって信じる者はまさにこの古い肉のからだを脱ぎ捨てた者とされている。

[12] 「あなたがたはバプテスマによってキリストとともに葬られ、また、キリストを信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされたのです」

キリストの割礼は「バプテスマ」(洗礼)によって示される。それは新しい神の民となる契約のしるしであり、旧約時代の割礼に代わるものである。しかしそこにはさらに豊かな意味が込められている。

①キリストとともに葬られる。すなわち肉につく古い人は死んで過去のものとなったことを示す。

②キリストとともによみがえらされた(水によってきよめられ新しいいのちによみがえる)ことを象徴する。

しかし、このバプテスマ(洗礼)はあくまでも象徴であって実際的な変化は人間の努力や洗礼の水ではなく、

キリストを死者の中からよみがえらされた神の力を信じる信仰を通して起こる。つまりキリストを復活させた神とその力を信じるときに起こるのである。

[13-14] 「あなたがたは罪によって、また肉の割礼がなくて死んだ者であったのに、神は、そのようなあなたがたを、キリストとともに生かしてくださいました。それは、私たちのすべての罪を赦し、いろいろな定めのために私たちを不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書が無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました」

「肉の割礼がなく」…異邦人の無割礼が象徴する神との交わりに入れられる以前の罪深い性質のうちにあった状態を指す。そのような状態の中であなたがたは神の前に死んでいたとパウロは言うのである。しかるに神はそのようなあなたがたを「キリストとともに生かしてくださった」そして「すべての罪を赦してくださった」とパウロは言う。これはまったくの神の恵み以外の何ものでもない。これは直接的にはコロサイ人たちに対して語られているが広い意味では罪のもとにあるすべての人を含む。それゆえ彼は自分も含めて「私たち」と言う。14節ではこの罪の赦しが「債務証書」のたとえによって表現されている。いろいろなすべきこと、守るべき戒めを有する神の律法は私たちが罪のゆえに積み重ねた莫大な負債を突きつける証書のようなものである。これは私たちに対する刑罰を宣言する証書でもある。しかし、キリストは十字架上でそれに対する私たちの一切の負債を負ってくださり、帳消しにしてくださった。キリストが十字架上で釘づけにされた時、まさに私たちの罪の負債一切を取りのけ十字架に釘づけにされたのである。

[15]「神は、キリストにおいて、すべての支配と権威の武装を解除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました」

ここではキリストがなしてくださったことが凱旋將軍の様子に描写されている。將軍はキリストであり、捕虜は「すべての支配と権威」と言われている。このことは2:10でも語られたが、神と人との間を取り持つと考えられていたもろもろの靈力や力、権威のことで、そのようなものは人間が勝手に考え出したものである。キリストはさまざまな迷信やまじない、占い、言い伝えなどによってがんじがらめになっていた者を解放された。私たちを押さえつけていたものは今やキリストの捕虜となってさらしものにされている。もはやこれらのものに捕らわれる必要はないのである。

以上、キリストが私たちのためになしてくださったことは、罪の赦しと、私たちを押さえ束縛していたすべての支配と権威からの解放であった。そしてこれは神の一方的なあわれみと恵みによる。まことに感謝である。

私たちはこの与えられているすばらしい特権、立場をおぼえ、もはやこの世のむなしものに捕らわれたり、頼ったりすることなく信仰を持ってキリストによりたのみつつ歩いていくことが大切である。